



意見交換会：リヤード・マーリキ・パレスチナ自治政府外務庁長官

2月17日(18:00-19:30)、日本記者クラブ9階宴会場で、来日されたマーリキ・パレスチナ自治政府外務庁長官と在日外交団及び中東調査会の会員等との間で意見交換会を開催しました。

(1) 同意見交換会では、「パレスチナ; 和平交渉への道 (Palestine: Pathway to the Peace Talks)」とのテーマの下で、マーリキ外務庁長官より、冒頭、要旨、次の発言がありました。

中東和平交渉について、イスラエルと直接交渉することが一番良い方法であることは承知しており、パレスチナ側としてはそれを追求してきた。しかし、過去23年間直接交渉を行ってきたが、その間生じた結果は、イスラエルによる入植地の増設であった。パレスチナ側としては、今後も直接交渉は必要であると考え、それを無期限に行なうことは受け入れられない。安保理決議などで、交渉の最終的な形と期限を設定することが必要で、そこから現状の問題を解決していく方法を模索していくべきと考える。



(2) 質疑では、分裂状態にあるパレスチナの統一の問題、日本にどのような役割を期待するのかなどの質問が寄せられました。